



【特集記事】フィルムに記録された まちの歴史、後世へ！



今回は、特集記事として古写真の保存・活用の取り組みについてご紹介いたします。

坂戸市立歴史民俗資料館では、発掘調査で出土した考古資料や、市民の方から寄贈いただいた民具の他にも、多くの古写真を所蔵しています。

ひとくちに古写真と言っても、明治時代に遡るものから、懐かしい昭和五〇年代頃のものまで、様々な時期にわたります。こうした古写真は、過去に行われた市史編さん事業の際に収集されたもの、市民の方からご寄贈いただいたもの、発掘調査の様子を記録したものなど、いくつかの種類に分けられます。現在、資料館では古写真の種類ごとに整理作業を進めています。



デジタル化で未来へ

フィルムや現像された写真の弱点は、年月を重ねることで劣化が進み、将来的には情報が失われてしまう可能性があることです。

そこで、写真のデジタルデータ化に取り組んでいます。アルバムごとに丁寧に写真をスキャンし、画像データとして保存していきます。もちろん、デジタルデータも万能ではありませんが、少しでも多くの文化財を未来へと伝えるためには、様々な手段で記録しておくことが大切です。

また、写真そのものの保存だけでなく、

付属する情報の整理も欠かせません。「いつ・どこで・誰が・何を・どのような場面で撮ったのか」という情報は、古写真の価値を大きく左右するものです。写真にまつわるこうした情報は、将来的にはデータベースとして整理していくことも必要です。

保存から活用へ

整理作業が進んだことで、古写真を活用する機会も増えてきています。開催中の企画展示では、古写真で坂戸の昔のまちなみを紹介しているほか、近年では他の博物館の展示や広報誌・書籍などに写真を提供したこともあります。

一方で、著作権・肖像権・個人情報の保護といった観点から、公開が難しい資料が多いのも古写真ならではの課題です。他の博物館・自治体における取り組み事例も参考にしつつ、写真にまつわる情報の整理や、新たな資料の収集を通して、活用の機会をより増やしていくことが今後の目標です。

古写真をご提供ください！

昔の坂戸の様子

(明治時代～平成初期ごろまで)

が分かる写真を探しています。

デジタルデータのみご提供いただき、

原本はお返することも可能です。

ご相談は、裏面右下の連絡先まで。

令和5年度 展示情報報

展示中 企画展示「鉄道がやってきた！」

街道・鉄道・高速道路が交差する「交通のまち」である坂戸の歴史を、「鉄道」や「駅」といったキーワードに注目しながら読み解きます。

古写真、ネルや民具の展示を通して、鉄道が開通したことによる、人々の暮らしやまちなみの変化について紹介しています。駅や鉄道にまつわる思い出を来館者の皆様で共有していただける、参加型展示もご用意しています。

資料館一階ホールにて、令和五年一〇月二七日（金）までを予定しています。

予告 「第二六回埋蔵文化財出土品展」

今年のギャラリーA展示は「大古墳展」。越辺川中流域の古墳文化について、出土品をもとにご紹介します。市指定以後、市内での一挙公開は初となる「入西石塚古墳出土品一式」をはじめ、入西地域・大家地域の集落や古墳からの出土品を、まとめてご覧いただける貴重な機会です。またギャラリーB展示では、令和元年度・二年度に市内各地で行われた発掘調査の成果をご紹介します。

坂戸市文化会館「ふれあ」にて、令和五年七月一九日（水）～七月二五日（火）を予定しています。

連載 学芸員のイチオシ!

西浦遺跡五三区（北峰地区）の発掘調査で出土した、小さな土器の旧字です。「旅館か、料亭の名前ではないか？」と目星を付けて調べたところ、実際にあった旅館の名前であることが分かりました。旅館「角喜」は、明治三二年（一八九九）の八王子宿（JR八王子駅の北側一帯）の様子を描いた絵図で確認でき、少なくとも大正初期頃までは営業していたようです。



この時期、入西で生活した人が八王子まで旅をしたのでしようか。当時の八王子は織物業が盛んだつたので、坂戸市域で生産された生糸や織物をめぐって、人の行き来があつたのかもれません。想像がかきたてられます。（足立）

連載 まちなか 文化財スナップ

今回は、横沼地区の真言宗寺院・忠栄寺をご紹介します。

本堂の脇に広がる墓地の一角には、南北朝時代にあたる応安七年（一三七四）に造立された板碑が残されています。板碑とは、中世に造られた石造物の一種で、故人の供養や、来世の冥福を祈る逆修などを目的としたものです。

忠栄寺の板碑は、「燈炉講」という組織のメンバー（結衆）であった人々が造立したもので、そこには、「忠栄坊」という文字がはつきりと刻まれています。



坂戸市内には、創建が中世以前に遡ると考えられる寺社が、小山地区の三福寺や、石井地区の宗福寺をはじめとして、いくつが存在しています。しかし、中世の段階で現在とほぼ同じ名前であったことが、当時の文字資料によつてはつきりと分かっていることは珍しく、このような例は貴重であると言えます。中世から脈々と受け継がれてきた祈りの場が、のどかな田園風景の中に今も息づいています。



春の忠栄寺境内。板碑は本堂左手の墓地の奥に残されている。

坂戸市立歴史民俗資料館だより 第5号

【発行】坂戸市立歴史民俗資料館
令和5年5月31日
〒350-0212
埼玉県坂戸市石井 1800-6
TEL 049-284-1052
FAX 049-284-1128

【利用案内】
入館無料・月曜日～金曜日 開館
(祝日・年末年始のぞく)
午前9時～午後4時

